

会 議 録

令和元年6月17日調製

審議会等名	平成30年度 第2回 図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	平成31年3月29日(金) 午後2時～4時
開催場所	三条市立図書館 2階 視聴覚室
傍聴者の有無	無
出席者氏名	<p>【協議会委員】</p> <p>五十嵐章雄委員長 倉品章副委員長 小林委員 三村委員 山田委員 六原委員 長谷川委員</p> <p>【説明のための職員】</p> <p>(生涯学習課)</p> <p>恋塚生涯学習課長 笹倉生涯学習課長補佐 今井生涯学習推進係主任 柴嶺生涯学習推進係主事</p> <p>(指定管理者)</p> <p>北浦館長 菊崎業務責任者 中野業務責任者 竹内副責任者 村山副責任者 梅田副責任者</p>
協議題	<p>(1) 平成31年度の事業計画について</p> <p>(2) 図書館等複合施設建設基本計画の中間報告について</p> <p>(3) その他</p>
生涯学習課長	(あいさつ)

図書館長	(平成31年度事業計画について説明)
六原委員	セカンドライフ応援ステーションは有償ということだが、登録制にして同じように通っていただくという形なのか。
図書館長	基本的にはその様に考えている。希望されない方に関しては、無償でも受けている。ただ、高齢介護課が主体になっている事業ということで、図書館としてもできる限り登録も含めた協力をさせていただいている。
六原委員	登録人数には上限はないのか。
図書館長	ない。
今井主任	補足すると、高齢者の方のセカンドライフということで、手を動かし、足を動かした有償ボランティアという形だ。高齢介護課が費用を負担し図書館では費用を持つ必要はない。なるべく多くの高齢者が出かけて仕事をすることが狙いで、高齢介護課、生涯学習課を經由し、図書館にお願いした経緯がある。
六原委員	多くの方が来てくれるという形になるから、良いと思う。
生涯学習課長	今、全体で概ね、65歳以上の方が800名程度登録されていると聞いて

	いる。
六原委員	800名は、もう登録されているのか。
生涯学習課長	図書館での仕事に限らず、私ども生涯学習課の業務で言えば、いろいろな展示会等の受付業務などに協力いただいている。
倉品副委員長	新しい事なので、いろいろなことをお聞きしたい。市民の方々はこれを承知しているのか。チラシや案内が広報などに何か出ているのか。図書館のことに限ると、チラシ等、募集や具体的な登録の仕方、活用の仕方を詳しく教えてほしい。
今井主任	周知について、本庁舎の第二庁舎にセカンドライフ応援ステーションとう部門が設けられている。そこが窓口になり、色々な広報活動、例えば『広報さんじょう』であるとか、全戸配布の広報物で周知をしている。図書館に限る募集というのは、具体的には実はまだしていない。来年度の話になるが、中央公民館の事業として行っている高齢者教室の一つのメニューとして、このセカンドライフ応援ステーションのお話を組み込み、周知を図りたいと考えている。
生涯学習課長	色々なところで周知はしている。例えば地域デビューコンサートでは、なかなか外に出てこない方々に対して、昨年度チェロコンサートを中央公民館で行った。500人収容するところを、500人を超える方々が来場した。基本、無償で聞いてもらえる形だが、まずは外に出てきてください、出てきた時に、実はこのようなことに手伝ってもらえますかというような案内を出している。ハッピーボランティアでは870人ぐらい登録されている。生涯学習課経由の地域デビューコンサートなどから登録を行った人が約200人位、その200人のうち、15の方が講座やイベントなどを受け持つような形となっている。地域デビューコンサートを第1ステージといい、第2、第3、第4ステージが、今度は市民の方が先生役になり、そこを今、たくさん求めている。すぐは難しいので、ステップアップしていくような形でいろんな取組をしているところだ。色々な分野のところから入口がある。
倉品副委員長	とても良いことだと思う。65歳以上、まさに同級生が一杯いる。「暇だ、暇だ」なんていうのが一杯いるので「ちょっと行ってみろよ」みたいなことを言ってもいいのかと思う。
六原委員	図書館に本の修理ボランティアで来る方も、セカンドライフ、ハッピーボランティアのように登録してという形だと思うが、私の布絵本をつくる会にも、そうやって増えた65歳以上の人に来てほしい。どういうものに参加すると有償であって、同じボランティアでも、そちらはお金をもらえるけれども、こちらはもらえない、という色分けがはっきりすると誘いやすい。「65歳でうちに来ていれば、1回来ると500円もらえるんだよ」というふうに、参加者が増えたらいろいろな活動ができる。

図書館長	セカンドライフステーションと打ち合わせした中で、棲み分けとしては、どなたでも説明を受けて簡単に始められることに関して、まず有償ボランティアにしようという話を伺っている。例えば、布絵本や読み聞かせをしている方というのは専門的な知識や技術をお持ちであり、誰でもできるというレベルではないという話があった。まず誰でもできる、どなたでも参加いただける敷居のところからと有償ボランティアを始めさせていただいた。
山田委員	布絵本や、読み聞かせは読書会では。読書会に入ることは、今言われた有償ボランティアの考え方とは違うのではないのか。
六原委員	来てくださって、布絵本や、いろいろな読書会があることを知ること、参加し興味を持つ方が増えるかと、希望を持ちたい。
図書館長	図書館としては周知に努めたいと思っている。
長谷川委員	この重点目標の第2次三条市子ども読書推進計画だが、第2次は平成30年度で終わる。今後どうするのか。第2次は、できてないという受け取り方でよいのか聞きたい。前回、説明はあったのか。
生涯学習課長	第2次三条市子ども読書活動推進計画、は平成31年3月末までの計画期間であり、基本的には新潟県で計画を策定したものについて、それに即したような形の計画をと謳われている。その新潟県の動向については、この計画は先送りするというので、まだ策定には至っていない。策定する動きがまだない。私どもも子どもの読書活動が一番大事なものと考えているため、この31年度の期間の中で、改めてこの計画を策定していきたいと考えている。
長谷川委員	それは県の動向にかかわらず、市として作るということか。そのためにアンケートを取るなど、前年や、これまでの計画の振り返り、目標数値も出ているが、見直しを含めてやるということか。
生涯学習課長	実情を捉えるということで、必要があればアンケートも必要とは思う。
長谷川委員	取りあえずは第2次をそのまま延長するということか。
五十嵐委員長	今年度中に具体的に、準備委員会などを立ち上げるという考えか。
生涯学習課長	立ち上げたいと思っている。
六原委員	1次と2次の時、私はどちらにもかかわった。先ほど新潟県の計画に則ってとあったが、一次は確かに則ったが、二次では、やはり三条市ならではの独自のものをという形で作った記憶がある。三条市がまた独自に、新たにこれから始めるというのは喜ばしい。
今井主任	もちろん県が作る、作らないということに関係なく進めていきたいと考えている。次年度、次々年度の策定を目指したい。
生涯学習課長	他の自治体も全て県が作ったからやっているというわけでもない。県に則っている所もあれば、全くやっていないところもあるが、三条市は、1年時期を逸したかという思いは正直持っている。ただ、この1年間で

	「三条市ならではの」というところは取入れたいと思う。今回、ポストでやっている仕掛け絵本の話であるとか、どうして、こういうところで子どもたちになのか、をしっかりと書き、皆さんに理解していただくような形を取りたい。全く県と同じようにとというと、三条市の本当に突出しているところが全部消えてしまうため、そこはしっかりと三条市で作っていききたい。
長谷川委員	先回、毎月23日の子ども読書の日を、日程を土日にするなど話し合いをされたようだが、それを含めてその計画の中で今後検討ということか。
生涯学習課長	そうだ。
図書館長	実際に図書館では、23日にこだわらず、前の日曜としている。祭日ならば23日に実施している。
長谷川委員	次年度策定ということになると、今年を取りあえず23日で、31年度は23日でやっていくという感じか。
図書館長	計画に盛り込むとして、実質、そうなる。
五十嵐委員長	以前から、なかなか23日が広がらない。
図書館長	4ページ目の図書館キネマは非常に参加者に好評だ。図書館で公開できる映画DVDを購入し、大人向け・アニメと二本立てで毎月第一日曜日に開催している。素敵なポスターをつくり、参加者が徐々に増えている。来年度も続けていきたい。
生涯学習課	中央公民館でも毎月1回、映画をやっている。50人～70人程度、楽しみにしている方々がいる。公民館は大ホールで見るので、映画館のようなもの。ぜひ、図書館と面白く連携・発信を31年度はやっていきたい。
六原委員	それも広報に載っているのか。
生涯学習課長	広報、公民館だよりに載せている。色々な事業を公民館でやっているが、公民館に来る人はわかるが、来ない人には全くわからない。ここに来れない人を呼ぶため、銀行・美容室・スーパー・携帯電話ショップなどにも資料を置かせてもらう取組を、去年から始めている。
山田委員	私はブックスタートのボランティアをしている。10か月のお子さんに関わり絵本を渡す活動。本の楽しさ、大切さをお母さん方に分かってもらうには、お子さんが小さければ小さいほど良いのではないか。10か月児健康相談会というのは、ほとんどの親子が来るが、他の自治体の中にはもう1回、何かのところで絵本を渡す取組をしていると伺っている。それだけの予算はなくても、例えば3歳児健診のときに、絵本の楽しさを来ている皆さんにアピールするアクションがあっても良いのでは。絵本を渡せるのが一番良いが、パンフレットや図書館から「大事だよ」と話すなど、何か一つ、工夫があったら良いのではないか。
六原委員	子どもが小さければ小さいほど、親がその必要性を感じないと、図書館や本に触れさせる機会が減ってしまう。子どもの健診のときに訴えか

	けるというのは有効と思う。本が周りにある環境、本に触れられる環境を市が支援しながら作ることが、将来的に本に救われる子が増えていくと思う。図書館と行政の方で働きかけていただきたい。
山田委員	図書室で本を1冊も選べない子がいる。「読む本がない」「面白い本がない」と。何を選んでいいかわからず、本に親しみが無い。小学校1年生でだ。小学校では遅いと思う。小さければ小さいほど良い。
五十嵐委員長	10か月児健康相談会で終わるのではなく、やっぱりそこを継続していくべき。
山田委員	それ以降もフォローアップ事業が必要。
図書館長	検討し実現できるようにしたい。
五十嵐委員長	具体的には、親への啓発と本が身の回りにある環境づくりか。
今井主任	すまいるランドに来ているのは、やはり若い母親と小さい子どもだと思があるので、そこと栄分館との連携を考えていきたい。栄分館は仕掛け絵本の蔵書日本一という点からも、まだ文字が読めなくても、仕掛けが動くというところで、母親や読み聞かせの方がいるだけで少しは繋がると考えている。
山田委員	生涯学習課で、仕掛け絵本の事業の流れでやっているということか。
生涯学習課長	そのとおり。
小林委員	各課の連携で事業を進められているということで、大変良いことだと思う。私も子どもの全校朝会での読み聞かせをし、本のよさをPRしている。継続して進めていき、色々な事業があることも職員にも伝えたい。
三村委員	私も小学校に勤めているが、やはり子どもたちの本離れが非常に気になる。本を離れて何をしているかというところ、ゲームやスマホに楽しみを見いだしてしまっている。当校では民育、市民教育も進めており、スマホが与えるブルーライトの影響や、色々な本に親しみましようということを学校でも取り組んでいる。地域や保護者への働きかけを粘り強く図書館と連携してきた。もう1点、ボランティアの養成講座だが、当校にも学校図書館の図書ボランティアがおり、本の修理や整理整頓をしている。技術的な本の修理やブックカバーの付け方の講座を非常に希望している。仕事の都合で参加できないことがあるので、案内があったら学校にもいただきたい。今後も続けてお願いしたい。

今井主任	(図書館等複合施設建設基本計画の中間報告について説明)
山田委員	面積は出ているが、蔵書冊数は何冊程度と考えているか。
生涯学習課長	今現在、30万冊。鍛冶の蔵書日本一ということを謳っている。入門書や専門書をプラスして40万冊程度か。
山田委員	何年か前に図書館法が改正され、図書館の望ましい基準も変わったのでは。図書館協会として出ている具体例、標準例を参考に、できれば近

	い形の蔵書としてほしい。
山田委員	是非、お願いしたい。人口に対して面積は狭いのではないか。
生涯学習課長	私どもではなく、外部委員会で賛同していただいたたたき台のため、実際に設計業者から提案をいただいた内容とも違っている。
六原委員	前の委員会、協議会の時にも言ったかと思うが、外部委員会メンバーでやるという形なのか。
今井主任	今は中間報告が終わり、次からその上の段に進む。そこで設計業者にも入ってもらった中で作り上げていく。
生涯学習課長	これで決定ではなく、その時に参加していなかった自治会長や地域の方をオブザーバーで入れている。必要に応じ、そのようになっていくと思う。
六原委員	建物を設計するなどの専門的なものでなく、複合施設なので、鍛冶道場・理科センター・図書館などに関わっている人が中に入り、「こういうふうになったら良い」という希望を吸い上げてくれる場をいただきたい。以前の協議会で、実際にボランティアをしている人、図書館を利用している人たち、鍛冶道場を利用している人たちなど、そういう人たちも協議に参加できる、希望が出せるところがあると良いと話をしたと思う。参加できる場・意見を述べられる場がないまま建物ができ上がってしまうのは残念なので、その辺はどうなのか。
生涯学習課長	図書館等ワーキンググループのメンバーの中には、鍛冶道場の館長、理科教育センターの専門の方も入っている。一般の市民では自治会や民生委員の方なども入っている。1人の意見を100%聞けるかどうかは別として、そういった場合に「このような意見もあります」というところは流すことは可能だ。生涯学習課だけでなく、鍛冶道場であれば鍛冶道場の館長に言うのも有り。市役所に行けば商工課が所管しているところでもある。本設計になっていく段階ではパブリックコメントも聴く予定であり、そこでも意見の言える場というものはあるかと思う。場面場面で意見を言える場は用意しており、何かあれば、生涯学習課にまず言っていただいても構わない。
山田委員	パブリックコメントの頃になると、ほぼ計画が固まっているというイメージがある。それで、その前に話が欲しいというようなことではないのか。
六原委員	以前、協議会のメンバーで他市の図書館を見学した際、「こんなのすごくいいね」というイメージがあり、計画に取り入れてもらいたいと思っている。ボランティア活動をしている方の中にも、意見を言いたい、新しい図書館ができるのに参加したいという方もいる。「ものを申したいなら、中央公民館に来て、生涯学習課に来て言いなさい」というような形では、一般の人は言いづらいのではないか。

生涯学習課長	それを言うのは確かにわかるが、全部の市民、10万人いる中で、「意見を言いたい人、皆さん集まってください」というのは無理がある。
六原委員	そうではなく、図書館のボランティア活動等に参加している人たちの意見も取り入れる場をつくって欲しいということだ。
生涯学習課長	ソフト面では、実際に関わっている人たちの方が詳しく知っている。ワーキンググループのメンバーの中に、ソフト面まで分かる人はどれぐらいいるのか。図書館という部分にこだわっている方もいれば、図書館だけではなく、博物館や美術館の要素も図書館のところに、複合施設に入れたら良いのではないかと言う方もいる。その意見のある方々が、どういう場で伝えてもらえるかというのがとても難しい。そのため、意見があれば言ってほしいと考えている。「皆さん、こういう場がありますから、どうぞ集まってください」はやはり難しい。
山田委員	意見を吸い上げてもらいたいという六原委員の発言もよくわかる。図書館に来る人は図書館を知っている人であり、関心のない人に聞いても「別にどうでもいいよ」となる。図書館で「新図書館に対し何か要望があれば入れてください」などのアンケートを実際の来館者に対し行っはどうか。例えば、授乳室があるが狭いのもっと大きくして欲しい、お手洗いや水道が欲しいなど。その中で、良い意見を取り入れれば良いのでは。
生涯学習課長	良いと思う。
山田委員	この2ページ目だが、にぎやかさと静けさの共存というのが、よくわからない。図書館の部分はどこにあたるのか。北三条駅駅前は二・七の市で人が集まるため、二・七の市に来る人を図書館に取り込む。逆に、図書館に来る人を二・七の市に取り込むなど、市場に来る人と何かできないのか。
生涯学習課長	以前、三条マルシェを手掛けた事がある。市場にどれだけ協力してもらおうか、マルシェと市場のどこが同じ、どこが違うのかをしっかりと伝えた上で、今はマルシェと市場のコラボマルシェを定期的に行っている。今まで年配の方が買い物に来ていたのが、家族連れが非常に増えてきた。コラボマルシェは続けているし、ステージえんがわと組んでのイベントも打っている。駐車場も今回増やそうとしている。それを含め、市場、定期市との連携は考えていく。
倉品副委員長	図書館は3階にできるのか。
今井主任	にぎやかさと静けさを共存させる、これを階で分けたらどうかと考えた。1階にはにぎわいのフロア、騒いでも構わない場所。2階はある程度騒いでもよい。3階は今までの静けさを求めている図書館の利用者の方などを、例えば3階にそういうスペースをつくり、一つの建物の中に共存させようという意味合いのイメージだ。何階が図書館かということ

	ではないというふうに理解していただきたい。
生涯学習課長	中間報告で、三条市の特徴を出そうとしたとき、今の図書館は全フロアで静かだと思うが、全国的にはカフェがあり、お茶を飲みながら本を読み、小さいお子さんも連れてきても大丈夫という施設が増えてきている。今までなかなか来られなかった、子どもが騒ぐからどうしても行けないというような親子連れの方にも来てもらいたいと思い、にぎわいと静けさを縦軸で表してはどうかと、このような形になっている。その上で、建築設計業者の方から「こういうような感じはどうか」という提案を昨日幾つか聞いたところだ。
倉品副委員長	イメージでよく理解はできるが、現実的には図書館が3階という線はないのでは。やはり1階だ。少子高齢化の中、80歳過ぎのおじいちゃん、おばあちゃんにはエレベーターが何基あっても、やはり3階に行くのはきついのではと疑問だ。先日、新発田市立図書館に行ったが、逆の発想だ。1階が図書室で、2階は騒いでもいいという感じで、子ども専用の図書館と、すまいるランドのような施設を一緒にしている。だから子どもたちが本当に遊んで、声も出しているし、本も読んでいた。その発想ではどうだろうか。
生涯学習課長	今回は、図書館の他に鍛冶ミュージアムと理科教育センターを複合させるため、鍛冶ミュージアムを見てもらい、鍛冶道場の方にも行ってもらいたいという思いがある。理科教育センターについては、図書館のために来ている方が理科教育センターのところを見ざるを得ない、何をやっているのか、どんな実験をやっているのかなというところで見せたいと考える。一番上の3階に本をたくさん並べてというよりは書庫的な要素が強くなると考えている。
倉品副委員長	書庫だったら良いのだが。
今井主任	これも少し案が出てきて、実際、実施設計に入っていく段階でというところだが、おそらくそのような感じになる。
山田委員	富山の富山市美術館、ガラス美術館、図書館を見学したが、隈研吾の設計だと思う。そこは建物の真ん中にエスカレーターがあり、1階からエスカレーターで上まで、4階かそれぐらいまで蔵書がある。ガラスと板でつくったおしゃれな建物。1階、2階、3階も真ん中にエスカレーターがあるのかとイメージしている。
倉品副委員長	エスカレーターで上がる感じか。
生涯学習課長	図書館と鍛冶ミュージアムの建物を、理科教育センターの建物で結ぶようだ。真ん中はステージえんがわや中央公民館に抜けていくような、今まで三条小学校が東西にあり、南北を行き来できずに分断されていると思われる地域の方々が多く、この際、南北を分断しないような形が良いと提案では出ていた。

倉品副委員長	駐車スペースは旧三条小のグラウンド全部と考えているのか。
生涯学習課長	そうは考えていない。
倉品副委員長	その半分ぐらいが駐車場でも良い。芝生で緑地みたいな形に。
生涯学習課長	芝生の方向になる。駐車場もまだ決定ではないが、旧三条小学校のグラウンドの中に半分緑地・半分駐車場とすると、危ないのではと思い、どうやって線引きできるのかというのが不安だ。提案の一つに、北側のステージえんがわと鍛冶道場との間のスペースを駐車場としてはどうかというものがある。市民の皆さんに、遊びに来てもらい、本を持って、外で、芝生の中で、上で、読んでもらうという形であるとか、イベントも打っていききたいという思いもある。
倉品副委員長	市民から見ると、一ノ木戸小学校跡地に「あそぼって」ができ、栄地区にはすまいるランドができたが、この辺には八幡様くらいで、そういった緑がない。
生涯学習課長	にぎわいという点で、面展開を図ろうと市は考えている。300メートルが歩いて移動できるキーワードと言われている。旧三条小学校の跡地だけではなく八幡様のところも直そうという話が出ている。12月完成予定の体育文化会館もまた300メートルぐらいの距離だ。その辺を繋げるような、回遊性を持たせるような形に考えている。
山田委員	100平米程度の民間施設とは、具体的に何かイメージとしてあるのか。
生涯学習課長	カフェを想定している。
六原委員	売店をつくる予定はないのか。三条の品物、刃物を売るわけではないが図書館やミュージアムの小物・バッグ・身の回りのものなど。
倉品副委員長	例えば、太田の美術館図書館はトートバックなどのグッズも売っている。業者がカフェ、グッズも手掛けている。事業者の収入になっているはず。市民だけでなく、外から来られた人が、何かお土産を1個ぐらい買っていこうかという時に何かあると良い。鍛冶道場も、国のお金を使っているため物販ができないという感じだったが、最近では刃物など売り始めている。
生涯学習課長	今の意見も、カフェを想定しているが、どういったカフェが入るのか、グッズ販売を伴ったカフェが入る可能性も十分にあると考えていただいて結構だ。
六原委員	こういう意見を出せる、意見を吸い上げる場をできれば作っていただきたい。先程のアンケートもいい案だと思うが「私たち新しい図書館とかミュージアムをつくるのに関わった」と実感できるようなボックスがあるとよい。
生涯学習課長	そこはすごく大事だと思う。「勝手にできて、どうなの」と思う人は批判の目で見がちになる。自分が少しでも「ここの部分は私のアイデアが採用された」となると、見方も違うというのはその通りだと思う。

	まずは公民館等々、図書館等々で、いろいろな意見がもらえるような形は一つ考えたい。どういった場でどういったメンバーがというのは分かりかねるが、まだ時間もあり、「こういうような形でやってみましょう」というのは、1回提案させていただく。
六原委員	今までは「専門家に頼んでできました」と、施設建設に関して疎外感があった。希望を聞くから言え、いつでも来ていいと言われても、一般市民にそんな度胸はない。少しでも関わったことのある人が意見を言えるような、もっと懐深く、ウェルカムにしてもらいたい。
生涯学習課長	批判ばかりでなく、イベントの感想など市民が話すこともあった。意見を吸い上げられる場がどういった形がよいか改めて相談したい。
六原委員	中央公民館にも気軽に遊びに行ける雰囲気を作ってほしい。意見も出し易くなる。
柴嶺主事	(協議題その他、仕掛け絵本コンクールの報告等について説明)
	(質疑応答なし)